場所　３年１組教室

第３学年１組　社会科学習指導案

授業者　坪井　喬未

１　単元　「私たちの暮らしと経済」
～ディズニーのチケット高くない？～
探究課題「TDR のチケットは値上げはあり？」

２　本時の指導

（１）段階　「活用」　１４／１４時間

（２）目標

・消費生活、流通、企業、株式、労働、市場経済について学んだことを踏まえて、TDR のチケット価格の高騰の是非について多面的・多角的に考えることができる。
（「活用」に関わる目標）

（３）本時の指導展開

時間	学習活動	教師の手だてと支援
0	１　学習課題を確認する。 学習課題　TDR のチケットは値上げはあり？	
3	２　学習課題について話し合う。 あり ・混雑していると快適に過ごせない。 ・収益が上がって TDR が存続してほしいから賛成。 ・企業からすると収益を上げることが目的なので、値上げは当然。 ・物価高騰の時代なので値上がりはしょうがない。 ・株主としては、収益アップは株価アップにもなる。株主優待であるチケットの価値も上がる。 なし ・これ以上の値上げは入園者の減少が激しくなる。持続可能ではない。 ・みんなにとっての「夢の国」ではなくなるとブランド価値は下がる。 ・チケット価格を上げなくても、お金を払って快適に過ごす方法を増やせばよい。消費者の中には「TDR に入ること」を求めている人もいる。	・多面的・多角的に考えられるように、「あり」「なし」を横軸、立場を縦軸にして構造的に板書する。 ・多様な考えを共有できるように、意図的に指名する。 ・追究してきたことを確認できるように、調べ学習時に使用したホワイトボードを掲示する。 **◎「値上げしてよい」が多かった場合、家族連れの客層、子どもの客層が離れていくことを捉えて将来の TDR が持続可能かどうかを検討できるように、保護者からとったアンケートを提示する。** **◎「値上げしてはいけない」が多かった場合、労働者の賃金とサービスの質の視点から考えられるように TDR のキャストの賃金と他業種の賃金の比較を提示する。**
25	３　資料を見て、学習課題について考える。	・本時の授業を踏まえて探究課題について振り返るように促す。
40	４　振り返りを書き、発表する。 「需要と供給の関係から見ると値上げはしょうがない。誰もが入りやすい（働きたい）TDR であることも持続可能な TDR になることに必要なこと。企業や消費者の一方的な考えではなく、いろいろな立場から考えることが企業経営には大切。」	

３　評価

・消費生活、流通、企業、株式、労働、市場経済について学んだことを踏まえて、TDR のチケット価格の高騰の是非について多面的・多角的に考えることができたか。
（授業中の発言・ワークシートの記述から判断する。）